

あの頃の

思い出

12



夢輝く吹奏楽部との共演

加曾利康之(59) 昭昭和58卒

エレクトーン演奏 国際大会グランプリ

かそり・やすゆき/昭和39(1964)年7月秋田市生まれ。同62(1987)年青山学院大学経済学部卒業。コンサートヘボウ(アムステルダム)、リスト音楽院ホール(ブダペスト)をはじめとして、国内外での演奏活動は2,000回を超える。横手清陵学院、美郷町立千畑小学校の校歌を作曲。現在、洗足学園音楽大学および札幌大谷大学芸術学部客員教授。聖徳大学音楽学部講師。



秋高を卒業してはや40年の歳月が流れた。1983年3月の卒業後上京し、以来現在まで東京での生活が続く。既に実家もなくなり、秋田に帰る機会もほとんどなくなってしまうが、やはり心のよりどころとしての故郷の存在は大きい。コロナ禍で随分と演奏の機会を失っ

てしまったが、これまで演奏活動で訪れた全国各地の人々は、私と秋田との結び付きがとても深い印象を持っているようである。もちろん、実際にそうであるわけだが、実は秋田に住んでいた期間はそう長くはない。秋田市で生まれたが、その後北海道や山形を転々とし、中2の時にようやく秋田に戻った。であるから、高校卒業までの正味わずか5年間ほどが秋田生活である。私の中の秋田は密度の濃い時間だった。そのうち秋高で過ごした3年間は特に私の宝物である。

高校生活3年間の最初の頃は、千秋北の丸にあった、父の勤務する営林署の官舎から学校へ通っていたが、途中から榎山にあった父の実家へ引っ越し、バス通学となった。榎山大回り線に乗り、文字通り大回りして登校し、帰りは秋田駅まで歩きそこからバス、あるいはさらに徒歩で榎山まで帰っ

た。私は亡き父と同じで、健脚である。都内でも、東京駅から現在の住まい麻布十番まで1時間半くらいは歩くことがある。当時、私は東京芸大の作曲科を志望していた。いや、これは正確に言えば敷かれたレールと言うか、自分の意思で決めたことではなかったように思う。

月2回週末を利用して上京し和声学のレッスンを受けていたが、当時秋田便の飛行機は定員60席程度のYS-11の時代である。航空券が取れなかった時は日本海経由の8時間半超えの特急で上京し、帰りは上野から寝台特急「あけぼの」に乗り、月曜朝7時過ぎに秋田駅に到着、そのまま登校していた。制服着用の必要がない秋高生のフットワークを最大限に生かした、今では到底できない強行軍をこなしていた。



ドイツ公演の一コマ(2017年)。海外での演奏は高校1年から行っていた


TAKU 歯科クリニック
TAKU DENTAL CLINIC
 歯科・小児歯科・歯科口腔外科
 院長
佐藤 拓(平成3年卒)
 秋田市寺内字三千刈325-3
 TEL.018-867-8255


えのき
こどもクリニック
 ENOKI KIDS CLINIC 小児科・アレルギー科
 院長
榎 正行(昭和49年卒)
 副院長
榎 真美子(平成3年卒)
 〒010-0972
 秋田市八橋田五郎2-13-18
 TEL:018-866-0505

Fine Enamel Jewelry
Atelier Musubiba
 from Mt.Takao

 ジュエリー作家
阿部 英亮(平成3年卒)


 医療法人 K.D.C
カネウチ歯科医院
 院長 **金内 洋光**
 (昭和56年卒)
 〒010-0041 秋田市広面谷地沖4-3
 TEL.018-832-8249
 URL <http://www.kaneuchi-dc.com>